

理数フロンティア校としての取組

平成25年度から2年間の「理数フロンティア校」の指定を東京都から受けました。新しい学校教育のあり方として、言語教育の充実があげられていますが、理科と数学科の教育にも力を入れ、基礎学力を定着させることがねらいの一つです。

昨年11月6日には「言語活動を通じた科学的な思考力・表現力の向上を図る授業の工夫」をテーマに、市内の理科の先生をお招きして研究授業を行いました。また、授業を充実させるためのサイエンス・サポーターを導入し、特に実験中に起こりやすい生徒のつまずきの支援を行っています。



理科の研究授業の様子

「言語能力向上推進校」としての取組と併せて、理数教育の充実も図っていきます。

明保中学校

理科好きな児童の育成を目指して

平成25・26年度は「理数フロンティア校」東京都指定校として、本校教員はもちろん、市内若手教員にも呼びかけ、理科指導力向上のための「夏季教員研修」を実施しました。理科部を中心にすぐに授業に生かすことができる教材を豊富に集め、全員が実際に実験器具等を扱いながら、授業での留意点や児童の興味・関心を喚起するポイント等を学ぶ画期的な研修となりました。また、「理科を教えることがますます楽しみになりました。」等の声もいただきました。校内では、「理科好きの子は、理科好きの先生から」との思いで、3年生から6年生で授業を公開。これからも児童が生き生きと学べる「楽しい理科授業」を追究していきます。



ルーペでせみの抜け殻を観察

柳沢小学校

◀安全めがねを装着しての実験

サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）

SPPとは、独立行政法人科学技術振興機構による、児童の理科に対する興味・関心と知的探究心を育成するとともに、進路意識の醸成および科学技術人材の育成を目的とする事業です。平成25年度、本校では、6年生が国立大学法人東京農工大学大学院教授渡辺敏行工学博士に「家にある物を使って電池を作ろう」の講義および実験の指導を受けました。発電や蓄電のメカニズムやキャパシター（充電放電が3秒以内でできる次世代型電池）等の最先端のものづくりに触れたり、みかんを使った蓄電池を作り、LEDを点灯させたり



みかんに電極を差し込み発生する電圧を測定します

と児童の知的探究心を高揚させるプログラムを体験することができました。

本町小学校

人権教育の推進

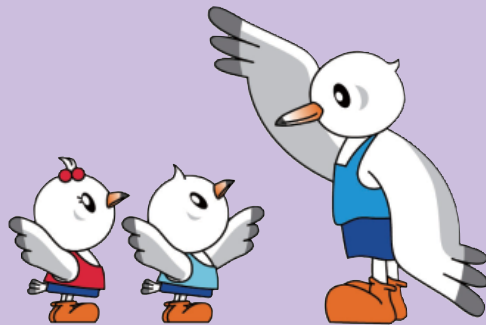
本校では、平成25・26年度東京都人権尊重教育推進校の指定を受け、「豊かな人権感覚をはぐくみ、人にやさしい教育環境の推進－認め合い、助け合い、励まし合う集団作りを通して－」をテーマに、昨年度までの、自尊感情や自己肯定感を高める取組の研究を基盤として、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等すべての教育活動において生徒の人権感覚を高めるための様々な取組を行っています。平成25年度はパラリンピックのメダリストを招いての講演も行い、生徒は本物のメダルを間近で見ながら、障害のある人の生活について理解を深め、相手の立場に立って考え、人と自分を大切にすることを学んでいました。



田無第三中学校

本物の銀メダルと銅メダルに見入る生徒たち

たのしく学ぶ



スポーツ推進大使「ゆりーと」

碧山小の読書活動

本校では、言語能力向上のために読書活動の充実に取り組んでいます。学級・学年で読書目標を立て、教職員が日頃から児童図書に親しみ、読み聞かせなどを通して児童に本との出会いの場を作るほか、学校図書館専門員と連携し、調べ学習をするときの資料の探し方など、学年に応じた指導を行っています。年2回の読書旬間を位置付け、多岐に渡る読書活動を行っています。

中でも本校独自の取組が、リーディングバディー（1年生と4年生、2年生と5年生、3年生と6年生）で、上級生が下級生に読み聞かせをする活動です。下級生のために上級生はお勧めの本を選びます。1対1から1対4くらいの読み聞かせで、本に対する集中力が増します。



碧山小学校

言語能力向上推進校としての成果発表

東京都言語能力向上推進校として、平成23年度から全教科で検証授業を実施し、授業改善に取り組み、また、「書評会」「ブック・トーク」「1分間スピーチ」を、全学年で実施し生徒個々の発表力・表現力の育成に力を注ぎました。

さらに、個々の生徒が良い発表の確かなイメージをもてるように古典落語の正統派である桂仲治師匠やフリーアナウンサー酒井ゆきえ先生など、第一線で活躍されている方々をお招きし、質の高い講演会を開催しました。

まとめとして、昨年10月25日、東京大学教授酒井邦嘉先生の記念講演とともに、本校の3年間の研究成果を発表しました。



保谷中学校



「認め合い 励まし合い 高め合う」人権教育

本校では、平成24・25年度文部科学省人権教育研究指定校として、以下の視点から研究を進めてきました。普遍的な視点としては各教科において自分の良さに気付き、協力するような活動を取り入れ、児童の考えを深めました。個別的な視点では、「子供」「高齢者」「障害者」の人権課題の学習に取り組みました。学年・学級経営の視点では、なかよしペア活動や言葉遣いを考える活動を通して人権感覚を育みました。家庭や地域との連携では、あいさつ運動や読み聞かせ活動、地域行事を通して人権感覚を高めました。昨年11月15日には、研究指定校の発表会を実施し、全国から



授業の様子

200人を超える参加がありました。

東伏見小学校



わくわくこどもまつり(地域との連携)

言語活動の充実「校内弁論大会」と「本の読み聞かせ」

本校では、言語活動充実の取組として、毎年「校内弁論大会」と「本の読み聞かせ」を実施しています。

弁論大会では、1年生は参加のみで、2・3年生の代表が発表します。2・3年生は全員が総合的な学習の時間や教科の学習等で学んできたことをもとに話す内容をまとめ、クラスでの発表を経て、各クラスの代表が熱弁をふるいます。

また、読み聞かせでは、朝の10分間を使い、全教員で各クラスを分担し、生徒の前で本を音読することで読書活動の推進を図っています。

これらの活動を通じて、自分の考えをもち、表現することの大切さを学ぶとともに、読書に親しんでほしいと願っています。



校内弁論大会



本の読み聞かせ